

【町民よりの質問】

- ・体に累積される放射線量が心配。
- ・例えば、年間 20mSv で避難指示解除された場合、5 年生活すると 100mSv を超えてしまうのではないか。
- ・100mSv を超えると、癌の発生が疑われる（発生確率が高くなるのでは）。

《参考①》

特定復興再生拠点の直近の状況

- 特定復興拠点の全地目平均の空間線量率（地表から 100 c m） $0.72 \mu\text{Sv/h}$
宅地の平均の空間線量率（地表から 100 c m） $0.50 \mu\text{Sv/h}$

《参考②》

●国際的・科学的な知見によれば、放射線による発がんリスクの増加は、年間 100mSv 以下の被ばくでは、喫煙など他の要因による発がんの影響によって隠れてしまうほど小さく、発がんリスクの明らかな増加を証明することは難しいとされている。

●ICRP 勧告においては、放射線防護の観点から、累積の被ばく線量は 5 年間の平均で年間 20mSv を限度とする旨が勧告されている。この範疇であれば、放射線による健康影響は、生活習慣などの他のリスク要因による発がんの影響に隠れてしまうほど小さいものであると、低線量被ばくのリスク管理に関するワーキンググループの報告書において評価されている。

さらに例えば、世界の高自然放射線地域の一つであるインドのケララ地方住民の疫学調査では、蓄積線量が 600mSv を超える集団であっても、発がんリスクの増加は認められておらず、国連の科学委員会もそのデータを採用するなど、科学的に正しいデータとして知られている。